

東大芦地区

人口	男	1,411人	女	1,444人	計	2,855人	世帯数	1,013世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

①文化観光交流事業【観光】

景観、環境、歴史、文化などの財産を生かしながら、これらの財産の保全や周知・啓発活動に取り組むと同時に、様々な人々との交流を通じて、生きがいや充実した生活を送れる地域づくりを進める。

「東大芦地区観光ガイドマップ」4,000部

②こども育成交流事業【学習】

地域の自然を生かした体験学習により、子どもの健全育成と社会に順応する力を育成する。

自然観察会、稲作体験事業 水稻苗代

③交流拠点確立事業【拠点整備】

出合いの森ゲートボール場を天候に左右されることなく、多目的に活用することで地域の交流拠点とするとともに、利用者の健康づくりや生きがいづくりに寄与する。

明り取りの屋根改修、防風カーテン設置

《収支決算》

【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	430,071	4,485,478	3,125,068	504,946	8,545,563
その他補助金	—	0	0	0	0	0
自己資金	—	3,550	0	0	0	3,550
計	—	433,621	4,485,478	3,125,068	504,946	8,549,113

【支出(円)】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	117,614	50,000	25,000	370,000	562,614
事業②	—	316,007	144,598	147,558	134,946	743,109
事業③	—	—	4,290,880	2,952,510	0	7,243,390
計	—	433,621	4,485,478	3,125,068	504,946	8,549,113

《事業への取り組みを振り返って》

文化観光交流事業【観光ガイドマップ作り】



青少年育成市民会議
会長 福田 朗さん

文化観光交流事業では、東大芦地区の観光ガイドマップ作りに大人だけでなく児童生徒が編集員として参加することで世代間の交流を図りました。また、子どもたちの意見やアイデアを取り入れることで、これまでと違った目線で地域の魅力ある自然やアクティビティを紹介することができました。

地域の皆さんの力を合わせて完成したガイドマップを手にとった方に、東大芦にぜひ行ってみたい、来てよかった、また来たい、と思ってもらえるよう東大芦の素晴らしさを広域に発信するツールの一つとして活用し、地域交流の活発化を図っていきたいと思います。



ガイドマップ編集員
高校1年 寄川実里さん

このマップ作りに参加して、私が感じたことは、地域の方々の優しさです。私が緊張してあまり話せないでいた時に、気軽に担当の方達が話しかけてくれたり、話題を振ってくれたりして、私が話しやすい空間を作ってくださいました。この経験から、人の優しさのありがたさを実感することができました。たくさんの人とマップ作りに携わり、改めて周りの人の優しさを感じました。

地域の方々の優しさに触れ、東大芦の自然の素晴らしさ、美味しいもの、素敵なお店などを知り、沢山の皆さんに良い所で育ってきたのだなあと思える事ができると思います。良い経験ができました。

◆◆◆地域の施設や史跡の紹介◆◆◆



出会いの森いちご園 いっぱいとれたよ



下沢薬師堂 どっこいしょ、一休み





《事業への取り組みを振り返って》

こども育成交流事業【農業体験学習】



ふれあいみどりの村
代表 寄川良一さん

子どもの頃から「農業」や「農村」に親しむことは、農業を理解し、次代の農業を担う人材の育成と確保を図るうえで大変重要です。

農業体験事業では、稲の栽培や収穫体験と併せて、伝承行事である「藁でっぼう」の作り方を地域の方が子どもたちに教えることで文化の継承と併せて異世代間交流を図ることができました。

また、農業用水路や田園での水遊びや生き物観察は、子どもたちが自然や生き物に触れ合うことを通じて豊かな人間形成を図る上で、大きな役割を果たすものと期待しています。

今後も事業の裾野を広げながら、地区内にとどまらず多くの子どもたちに体験の機会を提供していきたいと考えています。



市立西小学校
校長 善林克江さん

農業体験には西小学校5年生が参加し、稲の収穫や脱穀、「藁でっぼう」づくりを体験しました。農村ならではの様々な体験は、作物を育てることの苦労や、それに勝る収穫の喜びや感動、発見につながる貴重な学びの場となりました。

また、田んぼに入り稲や土、生き物に触れ、出会ったことのない人たちと交流するという非日常の体験は、子どもたちの表情を生き生きと輝かせ、身も心もまた一つ大きくなったように感じました。

体験学習にご協力くださった地域の皆様に心から感謝申し上げるとともに、子どもたちが地域の文化や生活を学ぶ機会として、これからも農業体験学習を継続していきたいと思えます。

◆◆◆農業体験学習の様子◆◆◆



はぜ掛けするとお米が美味しくなるんだよ！



「藁でっぼう」づくりのコツはね、ぎゅっと！ぎゅーっとね



《事業への取り組みを振り返って》

交流拠点確立事業【出会いの森ゲートボール場の改修】



鹿沼市ゲートボール協会
会長 石川正明さん

鹿沼市はゲートボールが大変盛んで、会員数においても県内8支部の中で最大となっています。その中でも東大芦地区の会員が7割を占めるなど、当地区がゲートボールの聖地と呼ばれる所以です。

また、当地区には全天候型の競技場が酒野谷の出会いの森、引田の芦の郷公園に設置されており、年間約15回に及ぶ大小様々な大会が天気に左右されることなく開催できることが自慢です。

地域の夢実現事業による改修工事により、出会いの森ゲートボール場がこれまで以上に安心してプレーを楽しむことができるようになりました。今後は地域の交流拠点として様々な活用を図っていきたいと考えています。



酒野谷ゲートボール場
利用者 渡邊孝子さん

私は身体の健康と体力の維持向上のために約7年前からゲートボールを続けており、仲間との交流やおしゃべりは何物にも代えがたい楽しみの一つとなっています。

改修工事のおかげで場内が明るくなり、冬でも寒い川風に凍えることなくプレーすることができるようになり、大変ありがたく感じています。

出会いの森総合公園は景色もよくキャンプやスポーツ以外にも様々なイベントが盛んに行われています。東大芦地区にとって地域交流のシンボリック施設であるゲートボール場が、これからも多くの方々の交流や憩いの場となることを期待しています。

◆◆◆酒野谷 出会いの森ゲートボール場の様子◆◆◆



設置が完了した防風カーテンを見るために集まった地域の皆さん



大きな明り取りからは日が差し込み、皆さんプレーに集中しています。